

2021年度



さくらんぼ園だより

3月号

社会福祉法人 舞鶴市社会福祉協議会

舞鶴子ども発達支援施設「さくらんぼ園」(Tel.64-5798・FAX.62-9171)

寒さも緩みやっとな春らしくなってきました。

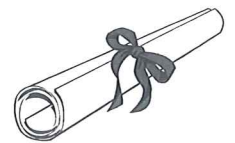
やっとな春らしくなり、最高気温が10度をこえる日が続くようになってきました。寒さも緩み、本格的な春が近づいてきました。保護者の皆様におかれましては、お元気でお過ごしでしょうか。

暖かくなって、土の中で冬眠していた虫たちが動き出すことを「啓蟄(けいちつ)」といいますが、「啓」の字には「開く」という意味があり、「蟄」の字には「虫などが土などに隠れている様子」という意味があります。つまり土に隠れていた虫が外に出てくる、それほどに暖かくなってきたことを示す言葉でもあります。

さて、この1年は、昨年引き続き新型コロナウイルスに振り舞わされた1年でした。デルタ株が落ち着いたと思ったら今度はオミクロン株…一体いつまで続くのだろうかと思っているうちに本年度の療育も、最終月となりました。3月は、卒園式があり門出の時期です。さくらんぼ園でも、37名の園児が卒園することになりました。これからの生活で自分の良さをいっぱい出し、一步一步確実に成長していくことを楽しみにしています。新型コロナウイルスの状況下にあっても子どもたちは、4月に比べると明らかに成長しました。しっかりとあいさつができるようになったこと、自分の言いたいことを話せるようになったこと、いろんな動きをねばり強く行うことによって出来ることが多くなったこと、そして、なにより友達との関わりの中で笑顔が多く見られるようになったことがあります。よくがんばった子どもたちに、拍手を送りたい気持ちになります。

保護者の皆様には、改めてお子さんを見られ、大きくなったなあと感じておられることと思います。子どもたちと一緒に、たくさんの楽しさや喜びを味わってきた私たちも、子どもたちの成長を実感しています。

私たちは、子どもたちがよい方向に伸びていくよう、考え合いながら、療育をしてきました。指導員は、立ち止まっている子どもがいたら、やる気にさせ、一つ前に向かわせる術をもっています。だから、子どもたちが、階段を一步あがるような瞬間に、何度も立ち合えました。そのときは、心から、子どもと喜び合いました。特に年長さんのこの一年、指導員は、進路を見据え、一生懸命、子どもたちと向き合いました。至らぬことも多々あったことと存じますが、保護者の皆様と共に、お子様の成長を喜び、力を合わせて療育を進めてこられたのではないかとかと思っています。保護者の皆様の、ご理解とご協力に、心から感謝を申し上げます。



園長 櫻井 秀之